

令和7年8月16日(土)

13時30分～15時30分

ふらっと仏生山2階研修会

若年性認知症の人と家族の交流カフェ

参加者

本人 3名

家族 6名

関係機関支援者 5名 計14名参加

I.プログラム

1) 自己紹介と近況報告

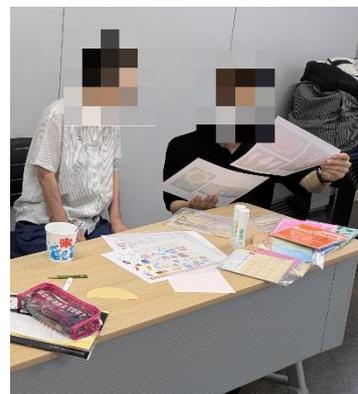
参加者で自己紹介と近況について話しました

2) 本人活動

毎日、暑いため、皆でかき氷を作ることにしました。

家族やスタッフの分も作ってくれ、食べました。冷たくて、美味しかったです。

かき氷を作った後は、ピアノを弾いたり、スタッフと一緒に活動しながら、各々、過ごしました。



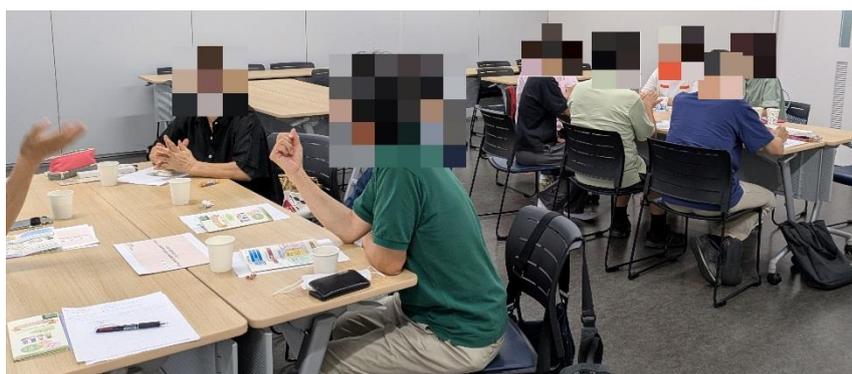
3) 家族活動

6月の交流カフェで「新しい認知症観」について話し合いました。前回の続きから、今回は、「認知症の人の意思決定支援」について考えてみました。「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を用いながら、家族と支援者交えて話し合いました。

(意見交換した内容を一部紹介)

- ・意思決定できるのは症状が軽い時ではないかと思う。当時、本人が、何がしたいかを汲み取る前に、本人のすることに腹を立てていた。余裕をなくして、認めてあげられていなかった。今なら、病気のせいだと理解し、優しく言えると思う
- ・家の近所のコミセンでコーラスをやっている。毎朝、本人が窓からコミセンがある方を見て、「みんなが行っている」と話している。何回も言うので、気になっているんだと思う。以前は、本人も譜面を見て演奏出来ていたが、今は難しい
- ・本人のしたいことは食べることだと思う。冷蔵庫から食べる物をよく取りだして食べてしまう。でも、いくらでも食べてしまうのは良くないので、「したいこと」でも、家族として止めさせないといけない状況だってあると思う
- ・本人なりに、認知症の進行予防として考えたのか、パズルとか大人の塗り絵を買ってきて挑戦している。遊ぶことが好きで、遊び方を見つけるのは上手いと思う。好きなことを勝手にやっているのだから、家族としては助かる
- ・本人の出来なくなってきてしまった事を見ると、やっぱり、落ち込んでしまう
- ・大きな決断ではないけど、日常生活のなかで、ちょっと相談したいなと思うことが起きた時、本人に相談できずに、全部自分一人で決めないといけないとなると、しんどいと感じてしまう
- ・本人のこともあるし、自分事でもあるけど、施設に入るタイミングはいつだろうと考える

難しい話題でしたが、参加されたご家族から、これまでの経験談などを交えて話し合いを進めました。



II.閉会